

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	60%以上	自校A B層の割合	60%以上
令和5年度の成果	自校A B層の割合	47.7%	自校A B層の割合	36.9%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業研究を年間3回行い、外部講師の指導を受け、授業力向上を図る。 各学期に行う授業観察を、すべての教員が見合えるようにしたり、指導案を共有したりすることで指導力の向上を図る。 「できる」「わかる」授業の工夫と「学び合い」を重視した授業への質的転換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テストの問題に4月と12月に取り組み、苦手分野を把握し、課題克服を行う。 マスター活動（九九・漢字）に取り組み、楽しみながら九九と漢字を確実に定着できるようにする。 学力向上チームの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習期間を年間4回行い、学校と家庭で連携しながら学力向上・生活習慣の改善に努める。学年×15分の家庭学習を促す。 授業のユニバーサルデザインを元に、ノートの取り方やめあて、まとめの書き方の統一を図る。 鹿骨東小学校こどもルールブックの徹底。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のOJT研修を活用した授業力向上の機会を確保する。 特別支援の研修の機会をもつ。 ICT機器や電子ドリル等を活用し、個に応じた学習支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ぐんぐん教室（放課後補習教室）へ週1参加し、学力向上を図る。 1人1台のタブレットのデジタルドリルを用い、苦手克服を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 補充教材やICT機器を活用して様々な手立てを用いながら児童に合う学習方法を見つけ、行っていく。 宿題の提出の徹底を行う。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査質問紙用紙「他の人と考えを交流しながら課題を解決する学習を行っていると思う」の肯定的回答85%以上。 「できた、わかったと感じることが多い」肯定的回答90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査質問紙用紙「学習はどのくらい得意ですか」の肯定的回答85%以上 CD層（国・算）50%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査質問紙用紙「毎日の学習時間1時間以上」70%以上 「自分で計画を立てて学習している」の肯定的回答70%以上